３４．高橋　理沙氏（LINE ヤフー株式会社　北九州センター）

**「制約を抱えていても、
自分のやりたいことをやり続けられるまち。」**

高橋　理沙（たかはし　りさ）
1987 年生まれ。北九州市出身。
2014 年にヤフー株式会社（現 LINE ヤフー株式会社）に入社。その後、2 回の産休・育休を経て、広告運用サポートのマネージャー業務に従事。ワークライフバランスを大切にしながら、1 人 1 人が輝いて生き生きと働けるように組織づくりに向き合っている。

「互いの価値観を尊重している」

五市対等合併は他の市と比べて特色になっているかもしれません。北九州市に住んでいて、改めて考えると、北九州市は広く、区ごとの価値観が同じ市内でも違いますが、それぞれ違う価値観を持ったままでも交わることができているまちだと感じます。

「田舎と都会、どちらも味わえる」

幼少期から比べると変わってきたのかもしれませんが、私は八幡西区に住んでいたので、小倉北区に出ることは都会に出るという感覚があり、市内で移動しているだけなのに都会に遊びに行く、という感覚を得られるのはすごいことだと大人になってから感じるようになりました。

「仕事と家庭の両立ができる」

働くということに関しては、北九州市で就ける仕事は職種の幅が広く、どのような制約があったとしても何かしらの職種に適合することができるのではないでしょうか。事情を抱えている人でも選択肢があり、やりたい仕事を選ぶことができるまちだと思います。

加えて、どんな職業を選んだとしても、「北九州市という場所に住んでいたい」という気持ちと、「自分がやりたい仕事をしたい」という気持ちが両立しやすいまちではないでしょうか。住んでいるところから動けない、しかし働かなければならないという場合には大抵、やりたい仕事を諦めなくてはならないジレンマに陥りますが、北九州市ではそのジレンマに縛られずに生きていけます。土地にも仕事にも縛られず暮らしていけるのはすごいところだと思います。

土地に縛られないというのは、交通の便がいいということにも起因しています。当社ではオンライン勤務を推進していく中で、東京に住んでいた方が北九州市に家を買って転居してきたケースもありました。思い切った選択ですが、東京に 2－3 時間で出られるし、東京よりも子育て環境が整っていて過ごしやすい。ずっと住んでいる立場としては、北九州市から出ずにキャリアを積み、生活を続けていくことができるまちです。共働きで働く際に、自分の両親と同居もしくは近くに住んで助けてもらう事を想定すると、北九州市に住み続け、子育てができるということは、羨ましがられるポイントです。

「稼げるまち＝働き続けられるまち」

稼げるまちは、働き続けられるまちのことだと思います。北九州市には製鉄など素晴らしい技術があります。ほかの市だと、“この市はこの職種”のように決まっている感じがしますが、

前述のとおり、北九州市は就ける職種の幅が広いです。AI が入ってきたとしても色々な職種があるので、未来に対応できるポテンシャルがあると思います。新しいことを受け入れ、働き続けられる職種があれば長く続いていけるまちになれるのではないでしょうか。

女性の働き方については、両親や身内の助けを借りて働き続ける方が多くいます。良いところの反面になるかと思いますが、企業の努力や自治体の力がまだまだ足りていない証かと思います。核家族だけで育てるとなったときに、父母どちらかに負担が偏ってしまいます。

「企業誘致に積極的」

北九州市は、企業誘致にも積極的です。市内にはたくさんのコールセンターがあり、ヤフーのコールセンターも誘致を受けました。コールセンターという職種は、他の職種で働くことが難しい方も働くチャンスが得られる職種です。東京など大都市にある会社の仕事を北九州市にいながらすることができ、キャリアアップしていけるというのはメリットです。

「純度の高いまち」

介護など事情を抱えていたり、人と対面で話すことが苦手だったり、という事情があっても働き続けられるまちだと思います。

新しいことを始めやすいまちでもあります。資格取得などの仕事のキャリアアップを考えた際に、資格を取る・取れない・取りやすいという話ではなく、いろんな価値観の方がいるので、自分の幅を広げられる、刺激を受けることのできる環境が整っています。色々な仕事・事情の人がいて、色々な学校や企業があるので、キャリア軸を狭めずにやっていけるというのがありがたいです。

地域で行われている取組についても、子どもを通じて知ることが多いのですが、北九州市では幅広い取り組み（セミナー・創作・自然活動等）を行っており、新しいことを始めるときにとっつきやすいと感じています。